

ケンサキイカ調査

大野明道
松山康明
由木雄一

1. 目的

本調査は、ケンサキイカが3トン未満動力漁船の漁業経営上重要な地位をしめ、依存度の高い資源であるにもかかわらず、その研究は皆無の状態であるので、その分布、移動回遊ならびに漁場形成要因を解明し、漁況変動と資源有効利用の基礎資料を得ようとするものである。

本年度は、この中で分類並びに生態面の調査が遅れているため、生物調査(多項目調査)に重点をおいて実施した。

2. 調査方法

調査は5~12月の間、月2回(5日、20日)を目安に浜田漁協に水揚げされる一本釣のイカを銘柄別に購入し、精密測定した。合せて銘柄別の漁獲統計より漁獲尾数のチェックと外套長組成のひきのばしを行った。

なお、熟度の進行を見るため卵巣、輸卵管およびニューダム氏嚢をホルマリン固定(10%)し輸卵管内の卵数、卵経さらに精キョウの数量について計測した。

漁場形成については、浜田市内の沿岸イカ一本釣漁業者150戸を対象に野帳を配布し、日別の漁場位置、漁獲尾数について記載を依頼した。

3. 結果

生物精密測定調査：月2回の調査で約1,500尾を調査した。

イカ釣調査野帳：資料として使用できるのは10%の15戸しかない。内容については、継続して調査する必要なものが多く、後日報告する予定である。